

⑥ 福島県立ふたば支援学校移転新築工事

受賞機関 福島県 相双建設事務所

キーワード 復興、支援学校、官民連携、BIM、共創

全建賞審査委員会の評価ポイント

東日本大震災で避難を余儀なくされた双葉地域の特別支援教育再生を目的に、ふたば支援学校の移転新築工事を実施。BIMデータとICT重機を連動させ、高精度かつ効率的な掘削を実現。支援学校の子どもたちによる木製パネル製作や高校生の作業体験を通じて建設業の魅力を発信し、特別支援教育の振興と住民帰還を支える復興拠点として整備された点が評価された。

1. はじめに

ふたば支援学校の前身である富岡支援学校は、障がいのある子どもたちが、地域社会の中でより良く生活する力を身につけられるよう、双葉郡富岡町に開設された。しかし、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響により、いわき市への避難を余儀なくされ、仮設校舎等で小学部と中学・高等部に分かれて教育活動を継続してきた。この度、双葉郡楡葉町に新校舎が完成し、令和7年1月から子どもたちは新たな環境で学び始めている。

2. 事業の概要

本事業は、双葉地域の教育振興と住民の帰還を支える基礎整備であり、また、避難地域における「教育の再生」のシンボルとなる移転新築工事である。

- ・ 地上3階建て 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
- ・ 敷地面積15,451.94㎡、延べ面積8,432.37㎡



ふたば支援学校新校舎全景

3. 事業の成果

1) 施工BIMの活用による効率化・生産性向上

BIMを活用し、配筋の納まりや設備工事との取合いを3Dモデルで事前に確認することで、施工の効率化と品質の向上を図った。また、土工事においてはBIMとICT重機を連動させ、掘削レベルを自動制御することで施工精度と生産性の向上を実現した。

2) 生徒・学校関係者との共創

校舎完成後、愛着を持って利用できるよう、ふた

ば支援学校の子どもたちを対象に、学校の昇降口に設置する県産材の木製パネルの施工体験を行った。また、子どもたちや学校関係者を対象とした現場見学会の開催や子どもたちによるイラスト入りの仮囲い設置など、施工段階から新校舎との関わりを実感し、新たな学校生活への期待やイメージを膨らませ、より親しみを感じてもらえる機会を設けた。

3) 官民連携による建設業の魅力発信

一般社団法人福島県建設業協会の協力のもと、地元工業高校の生徒を対象に現場見学や作業体験会を開催し、実際の現場作業を通じて、建設業の魅力ややりがいを体感してもらった。また、地元市町村や建設業協会等の会員を対象に現場研修会を開催し、地域の建築業界における課題や官民連携の必要性を共有した。さらに、発注者と受注者が工事の進捗状況などをSNSに投稿し、現場の魅力を効果的に発信した。



木製パネル施工体験



木製パネル設置状況



子どもたちの現場見学会



高校生の体験会

4. おわりに

新校舎完成後に開催された落成式では、子どもたちの代表が「これまで離れていた小学部と中学・高等部が新しくきれいな校舎で一緒に学べて嬉しい」と挨拶した。震災から14年、ふたば支援学校が真の復興に向けて大きな一歩を踏み出すことができたと感じている。今後も、利用者や地域と連携しながら施設整備を進め、子どもたちが希望に満ちた未来を描けるよう、双葉地域の復興に一層貢献していきたい。

賛助会員 前田建設工業(株)、田中建設(株)、(株)杜設計、三浦電気工事(株)、北関東空調工業(株)、加藤建設(株)